



# 日邦産業株式会社

証券コード：9913

2022年3月期 決算説明資料

2022年 5月13日  
代表取締役社長  
岩佐 恭知

- 1. 2022年3月期 通期業績と  
2023年3月期 通期業績の見通し（サマリー）**
  
- 2. 2022年3月期 通期業績（ディテール）**
  
- 3. 中期経営計画 2022**
  - ・ 定量目標の進捗状況について
  
- 4. トピックス**
  - ・ 持続的な競争優位性を創出する取組みについて

# **1. 2022年3月期 通期業績と 2023年3月期 通期業績の見通し（サマリー）**

# 2022年/3月期 連結業績（1）



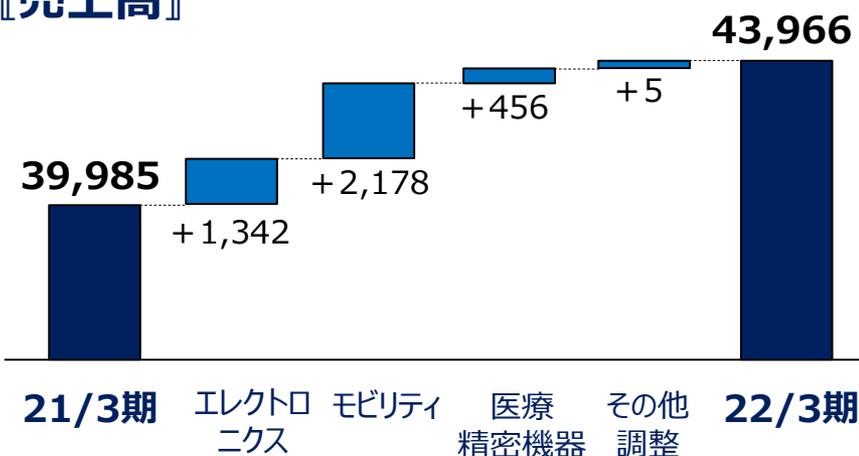
（単位：百万円）

科目	21/3期	22/3期 計画	22/3期 実績	前年比	増減額
売上高	39,985	※35,000 42,000	※35,491 <b>43,966</b>	110%	3,981
営業利益	635	1,200	<b>1,342</b>	211%	707
経常利益	505	1,130	<b>1,423</b>	282%	918
当期純利益	12	800	<b>1,031</b>	8,592%	1,019

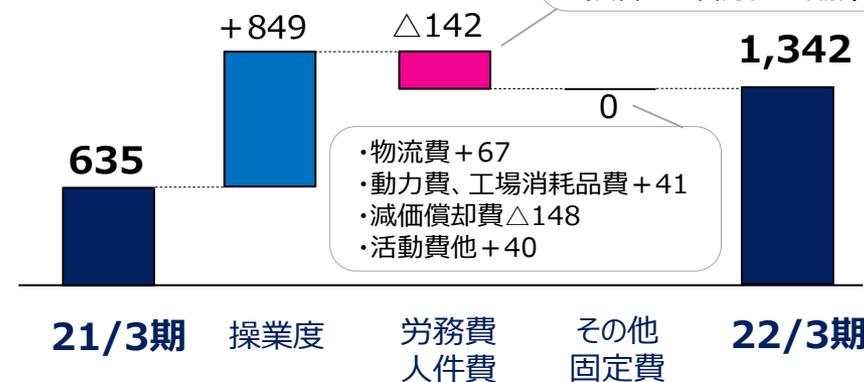
※「収益認識に関する会計基準（以下「収益認識会計基準」）」等を当会計年度より適用しております。

売上高欄の下段および下記グラフの数値は、前年比較のご参考として、収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。

## 【売上高】



## 【営業利益】



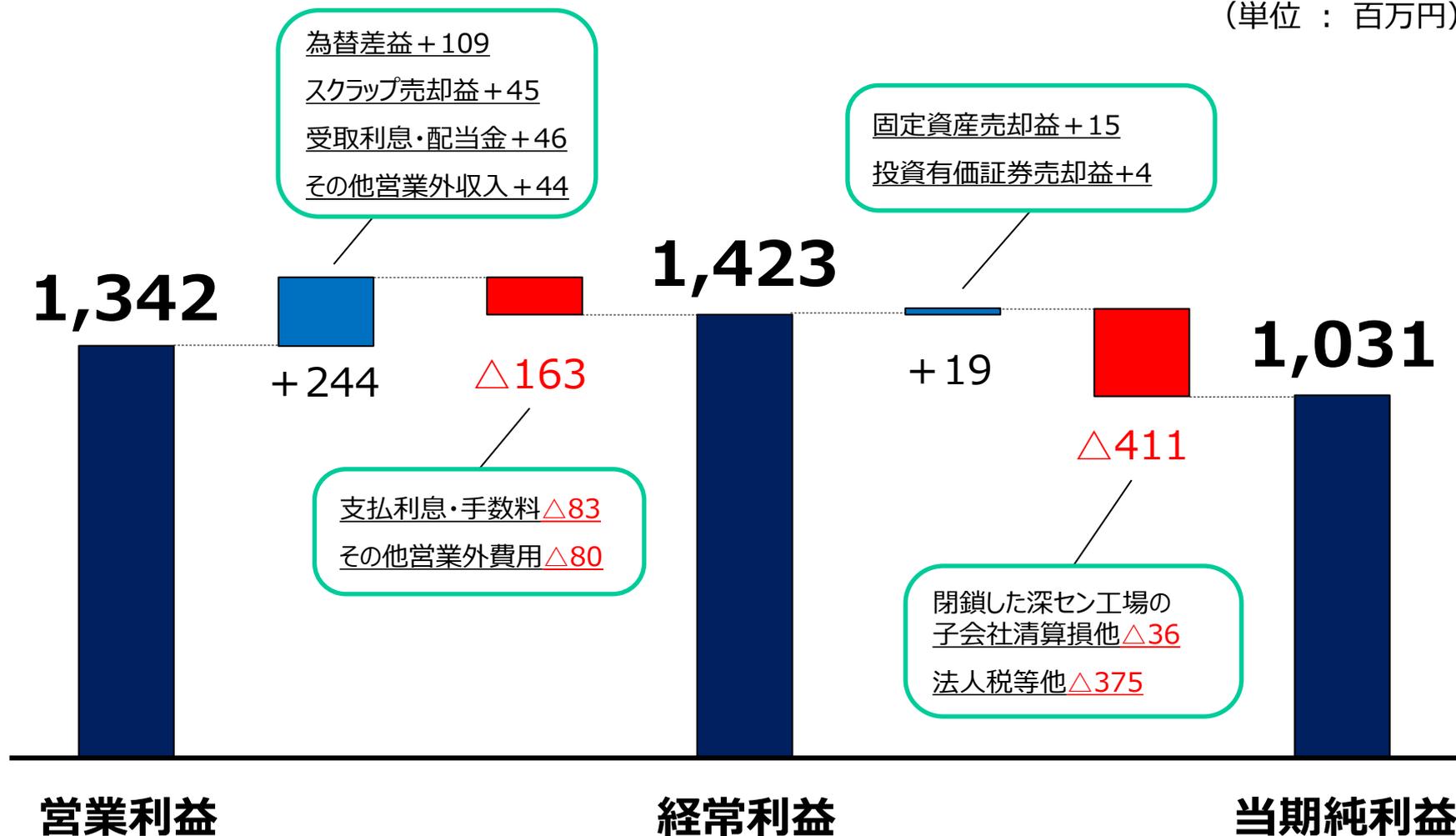
・前期コロナ関連助成金 + 75  
 ・操業度の向上 + 92  
 ・社員還元策 + 174  
 ・メキシコ製造事業撤退 △199  
 （合計142百万円の増加）

・物流費 + 67  
 ・動力費、工場消耗品費 + 41  
 ・減価償却費 △148  
 ・活動費他 + 40

# 2022年/3月期 連結業績（2）



（単位：百万円）



# 2023年/3月期 連結業績の見通し



(単位：百万円)

科目	22/3期 実績	23/3期 見通し	前年比	補足コメント
売上高	35,491	<b>37,500</b>	106%	1. 売上高 ①半導体供給不足の悪化 ②新型コロナウイルス感染症の変異株の拡大によるロックダウン ③資源価格高騰の長期化又は悪化 これら3つの懸念リスクが発現しないことを前提として、主要取引先の生産計画等を基にした計画となります。  2. 営業利益 「中期経営計画2022」の定量目標で掲げた、 <b>過去最高益を更新</b> する計画となります。  3. 経常利益・当期純利益 現時点で見通すことができる営業外損益、税金等を考慮した計画となります。  4. 配当金 持続的な利益成長にあわせた増配を株主還元の基本とし、23/3期の連結業績の見通しと、新たな設備投資計画等を勘案した上で、増配を計画しました。
営業利益	1,342	<b>1,550</b>	115%	
経常利益	1,423	<b>1,450</b>	102%	
当期純利益	1,031	<b>1,050</b>	102%	
年間配当金 (予定)	1株当たり 22円	<b>1株当たり 28円</b>	—	





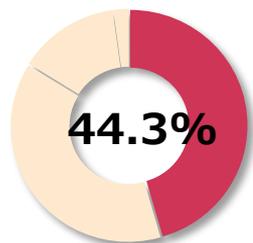
## 2. 2022年3月期 通期業績 (ディテール)

# セグメント別業績 (エレクトロニクス)



(単位：百万円)

売上高構成比

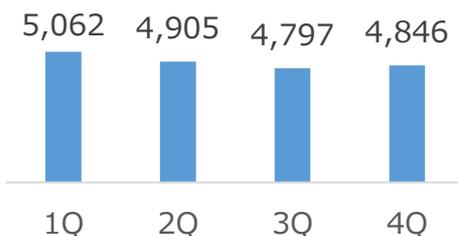


増収

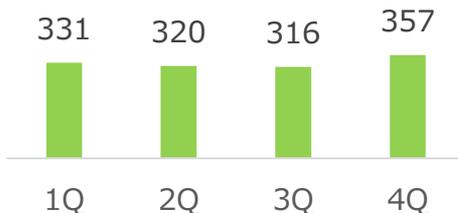
増益

## ■ 22/3期 業績推移 (Q毎)

< 売上高 >



< 営業利益 >



## 22/3期の業績概況

	21/3期 累計	22/3期 累計	前年比	増減額
売上高	18,268	<b>19,610</b>	107%	+1,342
営業利益	1,046	<b>1,324</b>	127%	+278

- 5G関連市場の拡大と旺盛な半導体需要・電子部品の需要を背景に、感光性材料や配線板材料等の関連部材の受注と沖縄工場の研磨用キャリアの受注が好調に推移。
- ベトナム工場のフィルム事業は、半導体供給不足により、顧客の生産計画に遅れが生じましたが、3Q以降の回復で挽回。

## 23/3期の業績見通し

	22/3期	23/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	19,610	<b>19,800</b>	101%	+190
営業利益	1,324	<b>1,200</b>	91%	△124

### ■ 増減要因

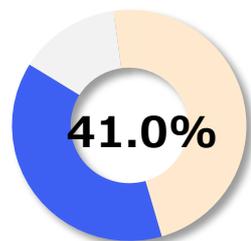
- スマートフォン関連の電子部材、半導体関連部材、配線板材料の受注は、引き続き堅調に推移する見通し。
- メーカー機能（スリット加工、研磨用キャリア、高機能接着剤）を強化するための先行投資とコロナ禍により活動の停滞を余儀なくされた新規開拓にかかる活動費の増加を見込む。

# セグメント別業績 (モビリティ)



(単位：百万円)

売上高構成比

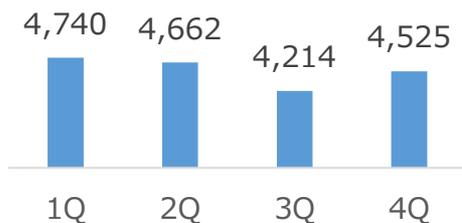


増収

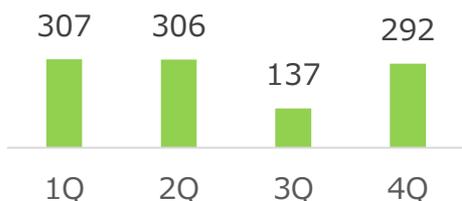
増益

## ■ 22/3期 業績推移 (Q毎)

< 売上高 >



< 営業利益 >



## 22/3期の業績概況

	21/3期 累計	22/3期 累計	前年比	増減額
売上高	15,963	<b>18,141</b>	114%	+2,178
営業利益	485	<b>1,042</b>	215%	+557

- 「半導体・電子部品の供給不足」が業界全体のリカバリー生産を鈍化させたものの、タイ（バンコク）工場やインドネシア工場でのパワートレイン系部品の受注が大幅に回復。
- 加えて、メキシコ製造事業の撤退に伴う業績改善も相まって、前年を大きく上回る結果となった。

## 23/3期の業績見通し

	22/3期	23/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	18,141	<b>20,000</b>	110%	+1,859
営業利益	1,042	<b>1,250</b>	120%	+208

### ■ 増減要因

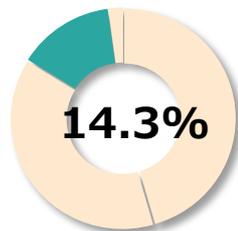
- タイ（バンコク）工場とインドネシア工場の受注は、継続して好調に推移する見通し。
- 稲沢工場のコイル部品の受注は、半導体・電子部品の供給不足の影響を受けるものの、通期単位では、前年並みで推移する見通し。
- 収益性の向上を目的とした「コスト競争力の強化」を継続。

# セグメント別業績（医療・精密機器）



（単位：百万円）

売上高構成比

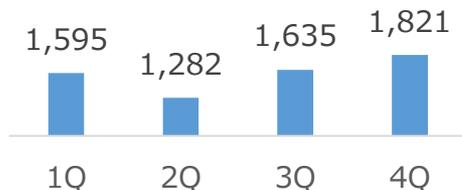


増収

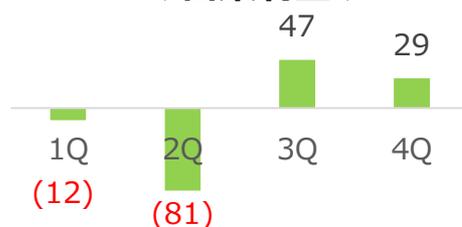
増益

## ■ 22/3期 業績推移（Q毎）

< 売上高 >



< 営業利益 >



## 22/3期の業績概況

	21/3期 累計	22/3期 累計	前年比	増減額
売上高	5,877	6,333	108%	+456
営業利益	△43	△17	—	+26

- 医療機器部品の受注は、タイ（コラート）工場における受託生産が堅調に推移。
- プリンター関連部品は、「半導体・電子部品の供給不足」により、顧客のリカバリー生産が思うように進まず、新型コロナウイルスの感染拡大による2Qまでの行動制限（ベトナム工場、フィリピン工場）のマイナス影響をカバーするに至らず。

## 23/3期の業績見通し

	22/3期	23/3期(見通し)	前年比	増減額
売上高	6,333	6,500	103%	+167
営業利益	△17	100	—	+117

### ■ 増減要因

- タイ（コラート）工場の医療機器部品の受注は、引き続き堅調に推移する見通し。
- 医療機器部品の国内生産体制を構築するための先行投資と許認可取得に向けた活動を開始。（本格量産は、2025年度を予定）
- プリンター関連部品の受注は、若干改善する見通し。（半導体供給不足の悪化と、新型コロナウイルス拡大による行動制限が発現しないことを前提として）

## **3. 中期経営計画 2022**

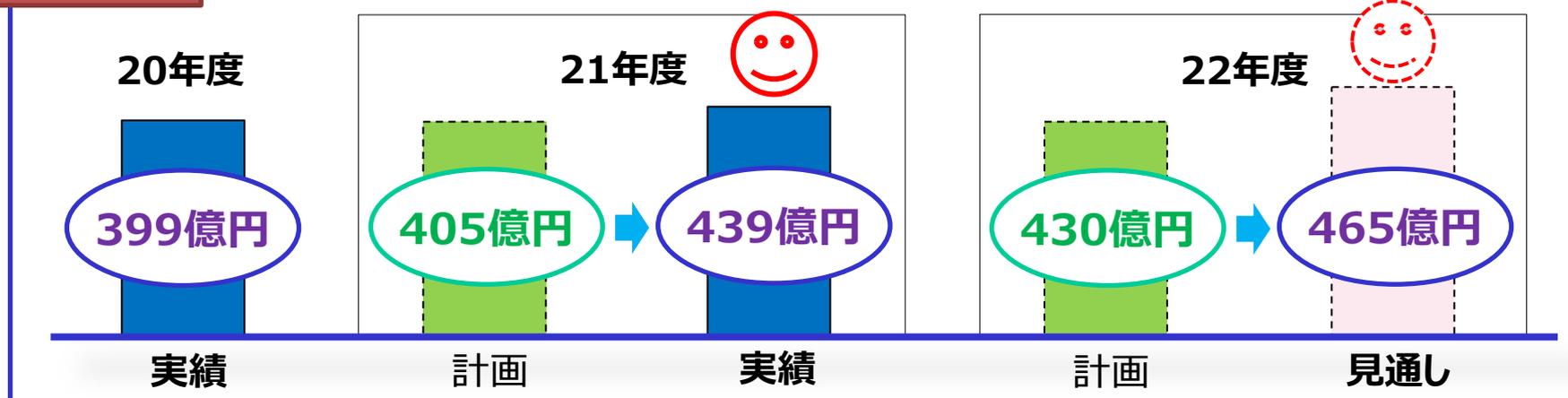
- **定量目標の進捗状況について**

# 中期経営計画2022-定量目標

～ 売上高・営業利益 ～

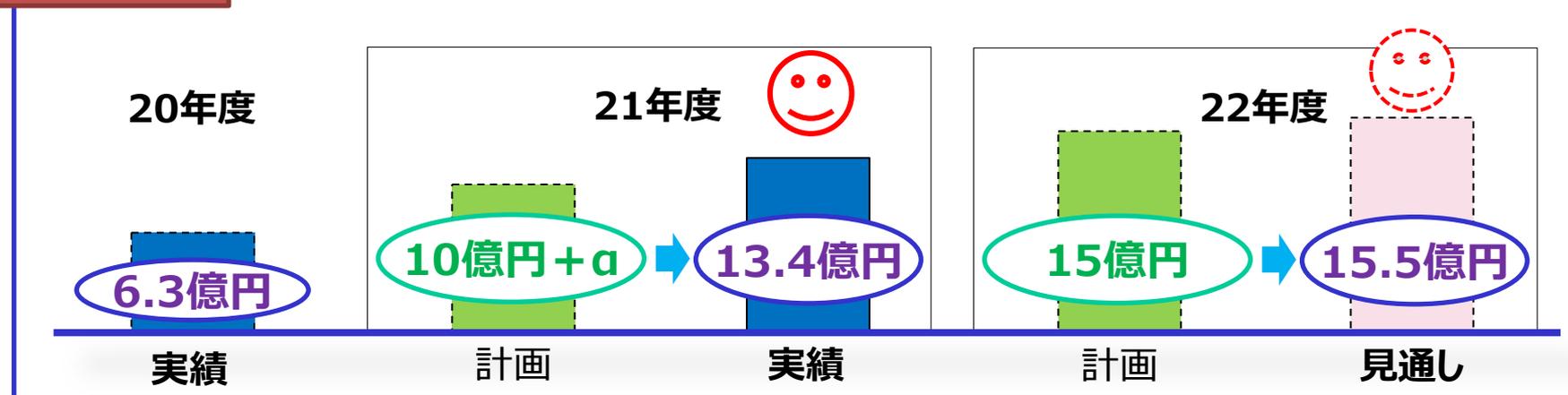


## 連結売上高



※ 売上高の数値は、収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。

## 連結営業利益



# 中期経営計画2022-定量目標

～ROE、DELシオ、配当～



## その他の経営指標

2020年度

2021年度

2022年度

ROE

0.1%

8.0%→10.7%

9.0%以上

DELシオ

0.50倍

0.6倍以下→0.46倍

0.6倍以下

配当

10円

20円→22円

20円+α→28円

※ DELシオ=有利子負債（長短借入金、リース・割賦負債）÷自己資本

# 中期経営計画2022-定量目標

## ～ セグメント別 ～



事業セグメント		2020年度		2021年度		2022年度	
		計画	実績 (計画比)	計画	実績 (計画比)	計画	見通し (計画比)
エレクトロニクス	売上高	165億円 →	<b>182億円</b> (110%)	170億円 →	<b>196億円</b> (115%)	180億円 →	<b>198億円</b> (110%)
	営業利益	10億円 →	<b>10.4億円</b> (104%)	11億円 →	<b>13.2億円</b> (120%)	12億円 →	<b>12億円</b> (100%)
モビリティ	売上高	160億円 →	<b>159億円</b> (99%)	170億円 →	<b>181億円</b> (106%)	180億円 →	<b>200億円</b> (111%)
	営業利益	4億円 →	<b>4.8億円</b> (120%)	9億円 →	<b>10.4億円</b> (116%)	11.5億円 →	<b>12.5億円</b> (109%)
医療・ 精密機器	売上高	60億円 →	<b>59億円</b> (98%)	60億円 →	<b>63億円</b> (105%)	65億円 →	<b>65億円</b> (100%)
	営業利益	△0.5億円 →	<b>△0.4億円</b> (-%)	±0円 →	<b>△0.2億円</b> (-%)	1億円 →	<b>1億円</b> (100%)

※売上高の数値は、計画との比較のご参考として収益認識会計基準適用前の売上高を記載しております。

## 4. トピックス

- ・ **持続的な競争優位性を創出する取組みについて**  
～中期経営計画2025・2028に向けた「種まき活動」～

# 持続的な競争優位を創出する取組み

## ① パートナーとのアライアンス活動

当社における「持続的な競争優位性を創出する取組み」として、業務提携先であるミタチ産業(株)、(株)バルカー、(株)フジインコーポレーテッドと選定した協業テーマに各取組んでおります。

各社の強みと当社の強みである成形技術、取引先ネットワークと問題解決型の技術営業機能とを組み合わせることで、事業シナジーの発揮を通じて企業価値の向上を図ってまいります。

	狙い		取組みの概況
1	ミタチ産業(株)が得意とする「実装基板・電子部品」と当社が得意とする「成形品」との組合せによる受託範囲の拡大（ユニット化）を狙いとしています。		5つのテーマ別プロジェクト活動を継続しています。
2	(株)バルカー社の強みであるR & D機能と当社の強みである取引先ネットワーク、問題解決型の技術営業機能との組合せによる商材開発等を通じて、商流内におけるそれぞれの付加価値の向上を狙いとしています。		4つのテーマ別プロジェクト活動を継続しています。
3	(株)フジインコーポレーテッドの強みである研磨材料の開発機能、同社主力製品であるウエハー研磨用スラリー、海外ネットワーク網等と当社の強みであるウエハー研磨用キャリアの製造技術等とを組み合わせることで、現行製品の機能向上と新規製品の開発を狙いとしています。		合同プロジェクト活動を継続しています。

## ② 全社プロジェクト活動

お陰様で当社は、本年3月6日をもちまして「設立70周年」を迎えましたが、当社が100周年を迎えられる会社になるためには、持続的な競争優位を創出するために必要となる「強み」に着目し、企業価値を向上させていくことが不可欠であると考えております。

当社は、「保有する強みのブラッシュアップ」と「新しい強みの取得」を目的として、新たに6つの全社プロジェクトを組成し、本年度より活動を始めましたことをお知らせいたします。

	プロジェクト名	役割（タスク）
1	リソース相互活用プロジェクト	商事部門とメーカー部門の「保有リソースを相互に活用する」ことで、新商品、新技術の開発や、新しい取引・事業を開発することを目的としています。
2	CO2削減プロジェクト	顧客や社会から求められる「温室効果ガスの削減」に備えた、実効的で効果的な具体策を立案し、実行することを目的としています。
3	グリーン開発プロジェクト	国家レベルで推進する「カーボンニュートラル」の注目される14のテーマの内から、付加価値の高い商材・サービスの開発、新しい事業を開発することを目的としています。
4	eコマース構築プロジェクト	異色性に富み、事業収益の拡大に資する「試作・部材販売等のプラットフォーム」を構築し、リリースすることを目的としています。
5	社員活躍プロジェクト	「挑戦した社員に報いる」という人事ビジョンに適う実効的で効果的な制度・運用の具体策を立案し、実行することを目的としています。
6	70周年事業プロジェクト	成長を続けている老舗企業の企業風土を研究し、周年行事を通じて、「目指すべき企業風土の醸成策」を立案し、実行することを目的としています。

## ③ 2022年度の設備投資計画

現行事業に関連する設備投資（目的：事業規模の維持(入替を含む)、生産性の向上その他）は減価償却費の範囲内（約12.6億円）に抑えつつ、「中期経営計画2025～2028」の各累計期間においても、収益を継続的に拡大させるため、下表の成長投資を実行してまいります。

投資の目的	投資額
<b>【エレクトロニクス】</b> アセアンにおけるドライフィルムの新市場への参入と スリット加工能力の増強	 3.5億円
<b>【エレクトロニクス】</b> ウエハ研磨用キャリアの製造能力の増強と収益性の向上	 2.5億円
<b>【医療・精密機器】</b> 日本国内における医療機器部品の生産受託体制の構築	 1.5億円
<b>【エレクトロニクス】</b> 機能性接着剤の開発及び試作能力の増強	 0.5億円
<b>合計</b>	<b>約 8億円</b>

日邦産業株式会社  
経営企画部 水口、藤浪

電話 : 052-218-3161  
E-Mail : ir@nip.co.jp  
HPアドレス : <https://www.nip.co.jp/>

## 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、当連結会計年度末時点での目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

なお、本説明資料に用いた為替レート次の通りです。

- ・2023年3月期 通期業績見通し：1米ドル＝110円、1タイバーツ＝3.3円で計算しております。
- ・中期経営計画2022の各計画値：1米ドル＝110円、1タイバーツ＝3.5円で計算しております。
- ・実績値につきましては、各年度の期中平均レートで計算しております。